

令和 2 年 6 月 6 日現在

機関番号：32601

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2017～2019

課題番号：17K04811

研究課題名(和文) 英語教育の質的向上を目指した実践研究法の整備と可能性の探究

研究課題名(英文) Inquiry into organising practitioner research methods and exploring its possibility with the aim of improving the quality of English-language education

研究代表者

高木 亜希子 (Takagi, Akiko)

青山学院大学・教育人間科学部・教授

研究者番号：50343629

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,300,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、英語教育における実践研究の研究法に着目し、実践研究において実践者が直面する研究方法に関わる課題を明らかにしながら、実践研究の様々な目的に応じた適切な研究方法について整理した。また、英語教師が英語教育実践において実りある実践研究を持続して行うことができる研究方法を具体的に提案した。なお、本研究における「実践研究」とは、教師自身の実践についての理解を深め指導の改善を目指すために、教師自らが主体となって行う体系的な研究であると捉え、教師自身の省察を支える実践研究の方法を整理し提案することが、教師の実践研究の充実化を促す要になるものと考えた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の学術的意義は、実践研究における研究方法に関する課題を整理し、具体的方策を提示したことである。これまでの英語教育における研究は、実証主義に基づく厳密な研究手法が求められることが多かった。従来の研究法では捉えられない様々な要因が絡み合う実践について、問いの立て方、データ収集方法、分析・解釈方法について具体的方策を提案したことの意義は大きい。社会的意義は、具体的な実践研究法を提示することで、実践研究を通して英語教師の授業改善と教師としての成長を支援することである。また、実践研究を協働の形で探究することで、教師の実践共同体のあり方について示唆を得ることを意図している。

研究成果の概要(英文)：This study focused on practitioner research methods in English-language education. The study revealed the issues that practitioners face in practitioner research regarding research methods and organized appropriate research methods that practitioners can employ based on the purpose of their research. Concrete practitioner research methods were presented in order to encourage English teachers to conduct beneficial research of their practice. In this study, practitioner research was defined as systematic research undertaken by a teacher on their own initiative in order to deepen understating of their practice or improve their teaching. As a result, the suggestions presented herein seek to organize practitioner research methods with the ultimate aim of enriching the body of practitioner research.

研究分野：英語教育学

キーワード：実践研究 授業改善 教師の成長 省察

## 様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

### 1. 研究開始当初の背景

様々な要因が複雑に絡む教育実践の中で、教師が抱える問題について深く理解したり、実践上の課題を解決する糸口を模索したりするといった教師による実践研究は、英語教育における実践の質的向上を目指す上で極めて重要である。しかし、これまでの英語教育に関する研究は、実証主義に基づく厳密な研究手法が求められることが多く、教師自身が多忙な日々の中で実践研究に取り組む際のハードルを高めてきた。その一方で、近年、英語教育においては、質的研究、アクション・リサーチ、探索的実践などといった多様な研究アプローチが注目され始めてきている。しかしながら、教育実践を研究するための手法が十分に整備されていないため、同僚あるいは研究者との間で実践に関する議論を深めることができず、実践知を効率よく構築できていないことも指摘できる。

これまで、研究代表者、研究分担者、および研究協力者は、英語教育における実践研究の捉えられ方や実践研究に関する実態を明らかにしてきた。その成果の1つとして、「実践研究」には少なくとも次の3つの要件があることが見えてきた。第1に、実践研究は、体系的な探求であること(構成要素として、問いがあること、問いに答えるためのデータがあること、データを分析し問いに対する答えを導き出すこと)。第2に、実践研究での研究の主体は実践者の教師自身であり、教師自らが指導する文脈において研究が行われること。第3に、実践研究の主な目的は、教師自身の実践指導に関わる事象についての理解を深めることであり、個々の教室内でのよりよい指導や学習に貢献することを目指すことである。この3つの特徴を含む研究を「実践研究」と捉えることとし、この実践研究を行う際において実践者が直面する研究方法に関わる課題について探ることにした。

### 2. 研究の目的

本研究の目的は、実践研究において実践者が直面する研究方法に関わる課題を明らかにしながら、実践研究の様々な目的に応じた研究の方法を整理することで、英語教師が英語教育において実りある実践研究を持続して行うことができる研究方法を具体的に提案することである。そこで、本研究を大きく3つの段階に分け、次の主な3つの研究課題を明らかにする。

- (1) 実践研究に関する先行研究の中で使われている研究手法について整理する
- (2) 実践研究での研究手法について実践者(教師)が直面する課題は何かを明らかにする
- (3) 英語教育における実践研究の研究手法のあり方(コツとポイント)を提案する

### 3. 研究の方法

上記の研究課題を明らかにするため、以下の3つの方法で研究を行う。

- (1) 実践研究の研究手法や理論的枠組の整理  
「実践研究の定義」を踏まえ、アクション・リサーチ、探索的実践、レッスン・スタディなどこれまで提案されている実践研究法を比較し、理論的観点の整理を行う。また、英語教育における実践研究手法の調査を踏まえて、英語教育だけでなく、日本語教育や教育心理学など他領域も含めて文献を収集する。以上に基づき、方法論的観点から問いの絞り方、データのタイプ、データの収集方法、データ分析などの観点から実践研究で用いられている研究手法について分析する。

- (2) 実践者(教師)が直面する研究手法上の課題の解明

研究代表者、研究分担者と研究協力者がペアで協働して実践研究に取り組む。各ペアでの実践研究を行いながら、適宜全体でも振り返り、各実践研究について多角的に意見交換を行う。及び実践研究を行ったり、実践研究を論文等の形で公開したりする過程で生じた課題について意見交換をしながら、協同で課題の解決策を探求する。調査結果は研究会や学会で発表し論文化する。

- (3) 英語教育における実践研究の研究法のあり方の提案

これまでの研究成果を整理し、英語教育における実践研究法のあり方を提案する。具体的には1)各実践研究法の理論的な枠組み、2)問いの探し方、問いの種類や整理の方法、データの種類、データの収集と分析・解釈、公表のあり方、3)実践研究をめぐる諸問題の整理とその対策、4)実践研究を行った教師の語りの4つの観点で研究成果を整理し書籍の形にまとめ刊行する。

### 4. 研究成果

- (1) 実践研究の研究手法や理論的枠組の整理

文献調査の結果、心理学や日本語教育においては、「実践研究」という用語がある程度確立して用いられているが、英語教育にはおいては「実践研究」という用語が確立されておらず、特にclassroom research(教室研究)、teacher research(教師による研究)、action research(アクション・リサーチ)の3つがよく混同されて用いられていることが明らかになった。また、教師の信念や実践についての理解の探求や深化をねらう点で、reflective practice(省察的実践)やlesson study(授業研究)、explanatory practice(探究的実践)という用語は、「実践研究」に類似しており重なる部分もあることが分かった。teacher researchに関する先行研究の定義を概観した際、研究を行う「主体」、「文脈」、「方法」、「目的」といった視点に共通点が見られることを踏まえ、本研究では、「実践研究」を「実践の理解や改善といった「目的」のために、教

師自身が研究の「主体」となって、教室という「文脈」の中で、体系的な「方法」を用い、「個人／協働」で行う、「公開」を視野に入れた研究であり、実践の質の向上につながるものである」と定義した。

## (2) 実践者(教師)が直面する研究手法上の課題の解明

実践研究の4つの事例をもとにした実践者へのインタビューから見てきたのは、実践研究の研究方法に関する課題には、研究プロセス、データの収集方法、データの分析方法、研究の公表の方法、研究協力者の関わり方、の5つの課題があるということである。具体的には以下に記述する。

### 研究プロセス

実践研究では、実践している過程で課題や問いが徐々に明らかになっていたり、問いそのものが変わっていきたりと、実証研究とは異なるプロセスが見られた。

### データの収集方法

実践の中に組み込まれたワークシートやテストなどをデータとして収集する際、当初設定した質問紙が教師の測定したいものと合わないという課題が見られた。どのような時にどのようなタイプのデータを収集すべきか、どのような点に注意してデータを収集すべきかは、実践研究を行う上で必ず直面する課題であると分かった。

### データの分析方法

学習者の作文をどのような観点で分析してよいか分からないといった問題や、質問を用いてデータを収集しても、その量的データの分析方法が分からないといった問題を実践者が抱えていることが明らかとなった。データ収集法と同様、データの分析方法についても、どのような時にどのような分析方法を用いるべきか、データの分析を行う際の視点の整理の必要性が明らかになった。

### 研究の公表の方法

実践研究を学会等で発表する際、教師の内省や実践の背景をどの程度含めるべきかに迷ったり、何を含めるべきかを精選することが難しかったり、生徒の変容と教師の変容のどちらを報告すべきか戸惑ったりといった問題点が挙げられた。科学的研究で一般的に見られる序論、先行研究、研究課題、方法、結果、考察、結論といった枠組みを実践研究でも適用すべきかどうか、実践者の主観的な解釈をどのように記述すべきかといった検討の必要性が明らかとなった。

### 研究協力者の関わり方

研究協力者としてどのような立ち位置をとるべきか、どのような役割を担うべきかといった、関わり方の違いや迷いがあることが明らかになった。研究協力者の実践研究への関わり方の検討は、教師の実践研究を今後充実させる上で重要であることが認識された。

## (3) 英語教育における実践研究の研究法のあり方の提案

これまでの研究成果を整理し、英語教育における実践研究法のあり方を書籍の形にまとめ刊行した。各章の概要は以下のとおりである。

### 第1章 実践研究をはじめよう

実践研究とはどのようなものか、実践研究の目的(実践の現状の理解と課題の改善)やの構成要素(問い、データ、分析・解釈)、研究プロセスについて解説した。また、実践研究とその他の研究の相違点に着目しながら、実践研究の特徴を見た。

### 第2章 さまざまな実践研究を見てみよう

実践研究の事例を取り上げ、実践研究の進め方について概観した。小学校、中学校、高校、大学といった異なる校種において行われた8つの実践研究の研究過程と結果の要点を示すことで、各研究の全体像を読者が把握できることを意図した。

### 第3章 問いを立てよう

実践研究においてどのように問いを立てればよいかについて提案した。問いを理解型と課題改善型の2種類に分け、実践の中で立ち上がってきた教師の問いを精選し、研究課題に洗練させるための要点を解説した。

### 第4章 データのタイプを知ろう

問いに答えるためのデータにはどのようなタイプがあるかを紹介した。データには、量的なものや質的なものがあり、何のために、どのような分野から、誰を対象にして、いつデータを集めればよいかといったデータ収集の要点を解説した。

### 第5章 データを収集しよう

どのようにデータ収集・整理をすればよいかについて提案した。データを量的データ(テスト、課題、評定型質問紙など)と質的データ(自由記述型質問紙、授業観察メモ、インタビュー、授業ビデオなど)の2つのタイプに分け、典型的なデータ収集法について準備・計画、実施、記録・

整理の3段階で紹介した。

#### 第6章 データ分析しよう

データ分析の方法にはどのようなものがあるかを紹介した。データの分析を量的分析と質的分析に分け、データの特徴を正しく理解するために、データを要約したり、表やグラフを作成したり、カテゴリーに分類したりして、データを整える方法を具体的に示した。

#### 第7章 データを解釈しよう

データ分析の結果をどのように解釈すればよいかを解説した。第2章で取り上げた実践研究のうち6つの事例に焦点を当て、データの解釈の方法の要点を示した。

#### 第8章 実践について語ろう・話そう・書こう

実践研究をどのように他者と共有すればよいか、研究会や学会などでどのように発表すればよいか、あるいは論文にすればよいかを示した。

#### 第9章 実践研究をやってみよう

実際に実践研究を行った教師の語りをもとに、実践研究を行うことで何が得られるのか、また、実践研究を行う過程で直面する課題にどう対処すればよいかについて提案した。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計13件（うち査読付論文 10件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 7件）

1. 著者名 田中武夫・藤田卓郎・高木亜希子・河合創・酒井英樹・清水公男・滝沢雄一・永倉由里・宮崎直哉・山岸律子・吉田悠一	4. 巻 25
2. 論文標題 英語教育における研究授業後の検討会のあり方について	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 教育実践学研究：山梨大学教育学部附属教育実践総合センター研究紀要	6. 最初と最後の頁 17～36
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.34429/00004702	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 藤田卓郎	4. 巻 5
2. 論文標題 実践研究のすすめ：教師が実践研究を行う意義と研究を始めるコツ	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 KELESジャーナル	6. 最初と最後の頁 22～59
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 清水公男	4. 巻 11
2. 論文標題 形成的アセスメントの視点に基づく英語学習者の学びへの支援をめざした2人称の授業実践研究	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 文京学院大学教職研究論集	6. 最初と最後の頁 33～44
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 清水公男	4. 巻 1
2. 論文標題 アクティブ・ラーニングにかかわる授業・学び・評価のデザインに関する考察	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 アクティブ・ラーニング研究	6. 最初と最後の頁 5～14
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 永倉由里	4. 巻 49
2. 論文標題 小学校英語指導力育成のためのストラテジー・トレーニング	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 中部地区英語教育学会紀要	6. 最初と最後の頁 341～348
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 永倉由里	4. 巻 40
2. 論文標題 小学校英語指導力育成のためのストラテジー・トレーニングとその効用	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 常葉大学教育教育学部紀要	6. 最初と最後の頁 299～322
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 酒井英樹・佐藤大樹・木下愛里・菊原健吾	4. 巻 30
2. 論文標題 中学校英語科における技能統合型の言語活動の指導 読んだことに基づいて話すこと [やり取り]	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 ARELE	6. 最初と最後の頁 303-318
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 小泉博明・清水公男・大久保幸夫・棚橋信雄・勝田大輔	4. 巻 19
2. 論文標題 アクティブ・ラーニングによる教育改革「教職課程におけるアクティブ・ラーニングと学習評価に関する射程と諸課題」	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 文教学院大学総合研究所紀要	6. 最初と最後の頁 247-250
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 清水公男	4. 巻 10
2. 論文標題 授業に関する2つのパラダイムと授業研究演習の効果に関する教育学的考察	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 文京学院大学教職研究紀要	6. 最初と最後の頁 17-26
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 永倉由里	4. 巻 48
2. 論文標題 私の探求的実践 これまでの研究の振り返りと今後への方向性	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 中部地区英語教育学会紀要	6. 最初と最後の頁 151-158
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 高木亜希子・田中武夫・河合創・酒井英樹・清水公男・滝沢雄一・永倉由里・藤田卓郎・宮崎直哉・山岸律子・吉田悠一	4. 巻 23
2. 論文標題 実践研究を論文化する過程で英語教師が直面する課題とその対応 - フォーカス・グループ・インタビューからの考察 -	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 『教育実践学研究』山梨大学教育学部 附属教育実践総合センター 研究紀要	6. 最初と最後の頁 51-73
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 永倉由里	4. 巻 47
2. 論文標題 「小学校英語指導」における体系的省察による実践理解と授業改善の試み	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 中部地区英語教育学会紀要	6. 最初と最後の頁 189-196
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 吉田悠一・清水公男	4. 巻 47
2. 論文標題 個の学びに視点をあいた協同的ライティング指導におけるOPPAを活用した学習評価に関する授業事例研究	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 中部地区英語教育学会紀要	6. 最初と最後の頁 265-272
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計22件 (うち招待講演 2件 / うち国際学会 0件)

1. 発表者名 田中武夫・藤田卓郎・高木亜希子・滝沢雄一・永倉由里・酒井英樹・清水公男・吉田悠一・山岸律子・宮崎直哉・河合創
2. 発表標題 英語教育における研究授業後の検討会のあり方について
3. 学会等名 全国英語教育学会第45回弘前研究大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 清水公男・吉田悠一
2. 発表標題 OPPシートを活用した中学校英語のwriting学習に着目した授業研究 学習者が学び方を学ぶ学習を目指して
3. 学会等名 全国英語教育学会第45回弘前研究大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 永倉由里
2. 発表標題 小学校英語指導力育成のためのストラテジー・トレーニング
3. 学会等名 全国英語教育学会第45回弘前研究大会
4. 発表年 2019年



1. 発表者名 藤田卓郎
2. 発表標題 英語教師のための実践研究法：自身の実践を対象に研究を行うためのポイント
3. 学会等名 関西英語教育学会2019年度（第24回）研究大会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 高木亜希子・藤田卓郎・宮崎直哉・前波彩・松下佳菜
2. 発表標題 教師による実践研究の方法 - 教師の成長と授業改善を目指して -
3. 学会等名 第49回中部地区英語教育学会石川大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 酒井英樹
2. 発表標題 教員養成における課題と展望：コア・カリキュラムを踏まえて
3. 学会等名 日本児童英語教育学会（JASTEC）第39回全国大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 酒井英樹・矢野司・米山聡・木下愛里
2. 発表標題 領域（技能）統合（読んだことに基づいて話すこと）の指導と評価
3. 学会等名 全国英語教育学会第44回京都研究大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 木下愛里・佐藤大樹・酒井英樹
2. 発表標題 中学校における領域（技能）統合型の言語活動を通じた話すこと [ やり取り ] の指導
3. 学会等名 全国英語教育学会第44回京都研究大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 酒井英樹・工藤洋路・島田英昭・小森真樹
2. 発表標題 中学校における言語活動と英語力の自己評価や英語力との関係
3. 学会等名 第48回中部地区英語教育学会 静岡大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 藤田卓郎
2. 発表標題 私の実践研究の進め方
3. 学会等名 第48回中部地区英語教育学会静岡大会（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 藤田卓郎
2. 発表標題 気軽に行う実践研究のすすめ
3. 学会等名 全英連（全国英語教育研究団体連合会）滋賀大会平成30年度第68回英語教育研究大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 乗富智子・滝沢雄一
2. 発表標題 伝えたい内容を重視した英語授業を目指してー目的意識・相手意識を持たせるためにー
3. 学会等名 第18回小学校英語教育学会（JES）長崎大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 清水公男・吉田悠一
2. 発表標題 形成的アセスメントの視点に基づく中学校英語学習者の個々の学びの支援を目指した授業実践研究
3. 学会等名 第28回中部地区英語教育学会静岡大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 清水公男
2. 発表標題 学習と評価の関係性を捉える3つの枠組み
3. 学会等名 日本アクティブ・ラーニングSIG：第4回学習評価研究会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 清水公男
2. 発表標題 授業実践研究において学習者の「学び」を捉える評価方略
3. 学会等名 日本アクティブ・ラーニングSIG：第2回学習評価研究会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 永倉由里
2. 発表標題 私の実践研究－課題設定と実践・検証のこれまでとこれから－
3. 学会等名 中部地区英語教育学会静岡研究大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 宮崎直哉・永倉由里
2. 発表標題 表現活動を主体にした3年間の英語授業の実践
3. 学会等名 第48回中部地区英語教育学会静岡大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 田中武夫・藤田卓郎・河合創・宮崎直哉・永倉由里・酒井英樹・清水公男・高木亜希子・滝沢雄一・山岸律子・吉田悠一
2. 発表標題 英語教育の質的向上を目指した実践研究法のデザイン
3. 学会等名 第47回中部地区英語教育学会長野大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 清水公男
2. 発表標題 授業実践研究における学習評価 (assessment as learning) の役割
3. 学会等名 日本アクティブ・ラーニング学会第2回研究大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 清水公男・吉田悠一
2. 発表標題 OPPを活用した学習評価デザインの授業実践研究
3. 学会等名 日本アクティブ・ラーニング学会第2回全国大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 永倉由里
2. 発表標題 「小学校英語指導」における体系的省察による実践理解と授業改善の試み
3. 学会等名 第47回中部地区英語教育学会長野大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 吉田悠一・清水公男
2. 発表標題 一人ひとりの学びにフォーカスしたライティング指導の授業実践事例
3. 学会等名 第47回中部地区英語教育学会長野大会
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計2件

1. 著者名 田中武夫・高木亜希子・藤田卓郎・滝沢雄一・酒井英樹編著	4. 発行年 2019年
2. 出版社 大修館書店	5. 総ページ数 269
3. 書名 英語教師のための「実践研究」ガイドブック	

1. 著者名 酒井英樹・廣森友人・吉田達弘編著	4. 発行年 2018年
2. 出版社 大修館書店	5. 総ページ数 319
3. 書名 「学ぶ・教える・考える」ための実践的英語科教育法	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	田中 武夫  (TANAKA TAKEO)  (50324174)	山梨大学・大学院総合研究部・教授   (13501)	
研究分担者	酒井 英樹  (SAKAI HIDEKI)  (00334699)	信州大学・学術研究院教育学系・教授   (13601)	
研究分担者	清水 公男  (SHIMIYU KIMIO)  (10516438)	文京学院大学・外国語学部・教授   (32413)	
研究分担者	滝沢 雄一  (TAKIZAWA YUICHI)  (00332049)	金沢大学・学校教育系・教授   (13301)	
研究分担者	永倉 由里  (NAGAKURA YURI)  (00369539)	常葉大学・教育学部・教授   (33801)	

## 6. 研究組織（つづき）

	氏名 (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分 担 者	藤田 卓郎  (FUJITA TAKURO)  (70735125)	福井工業高等専門学校・一般科目（人文系）・講師     (53401)	